

超音波機能解剖を用いた 肩関節の評価と運動療法への活用

～疼痛・拘縮の病態解釈および治療実技～

概要

近年の超音波画像診断装置(以下、エコー)の飛躍的な進歩は、診断ツールに留まらず、いまや運動器領域の理学療法を行う上での診療ツールとなってきている。高周波プローブの技術革新により、運動器を構成する組織の殆どをリアルタイムに観察することが可能となってきた。MRIをも凌駕する空間解像度と動態観察が可能となったことで、理学療法士が必要とする運動器構成体(筋、靭帯、腱、関節包、神経、軟骨など)の情報は、ほぼ観ることが可能である。観えることで病態が解釈しやすくなり、病態を十分に把握した上で理学療法を展開することができる。運動器疾患を扱う理学療法士にとって、もっとも身近な障害のひとつに拘縮がある。拘縮の病態は、組織間の滑りが障害される癒着と、組織自体が伸びない短縮、加えて筋緊張の亢進(筋攣縮)とを念頭におくことでその解釈はほとんどが可能となる。これらに解剖学の知識を組み合わせることで、殆どの病態を明確化させることができる。組織間が動かない癒着であれば、理学療法士には癒着を剥離する技術が必要となる。癒着の剥離には組織間へShear force(剪断する力)とSeparating force(引き離す力)を加えることが必要となる。あとは理学療法士としての触診技術の精度が治療結果を左右する。本セミナーでは、肩関節において理学療法士が対応可能な「疼痛を主訴とする病態の解釈」をキーワードにエコーの活用と効果的な運動療法について実技を含めて解説する。

[内容]

肩関節の病態解釈

超音波画像診断装置にみる肩関節の正常解剖描出

超音波画像診断装置にみる肩関節疾患患者の解剖

肩関節疾患に対する治療手技

【講師】 小野 志操先生 (京都下鴨病院)

【日時】 2019年7月21日(日) 9:30~16:00 (9:00受付)

【受講料】 10000円(税込) 当日現金にて徴収

【申し込み方法】 HPにて受付

【HP】 <http://jissen-riha.com>

【問い合わせ】 jissen-riha2@ab.auone-net.jp

【会場】 グリーンホスピタルサプライ(株) 4階大会場
(〒565-0853 大阪府吹田市春日3-20-8)

【交通のご案内】 北大阪急行電鉄「桃山台駅」下車
南改札口より南へ徒歩7分

※近隣に駐車場が少ないので公共交通機関をご利用下さい

